

学校だより

津久戸

令和2年10月1日

10月号 新宿区立津久戸小学校

通知表の価値をより高めるために

副校長 古川 卓也

書店や文房具コーナーを訪れると、2021年1月から使用される手帳がズラリと並びはじめました。多くの方々が、来年を見据えたスケジュール管理を始めていくことを意味していると考えます。

児童にとっての10月は、年度の前半を振り返り、後半に向けた学びや自己成長のための戦略を練る時期であってほしいと、私は願っています。自分の学びの結果や状況を可視化したツールの一つとして「通知表」が今週、児童に手渡されます。

私たち教員は、「通知表は児童にとって励みになるように…」とよく言われます。「児童にとって励みになる通知表とは何か」という疑問をもつ時期が私にはありました。私自身が心のどこかで、通知表は「成績評価をするもの」という概念にとらわれていたのだと思います。一般的にもそのような認識が慣れ親しまれているのではないのでしょうか。

世界における教育の潮流は、「子ども自らが学びや経験の中で、そのことの意味合いを構築する」ということを意識しています。自らの学びの「方向性」、「現在地」、「次に向かうところ等」を他者と協働する営みの中から、自分自身で問い直すことが大切にされています。児童に、「何を学ぶことが期待されていて、それまでに何を学んだのか」「これから何を学べば良いのか」等を伝え導くことで、通知表は、子どもにとって「励み」になるのだと、私は改めて考えています。

日本の新学習指導要領でも、特別活動において、「学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」という学習内容が新設されました。自らの学びを振り返り、自己評価して、次につなげていくための目標を設定し、自分自身を育て、自己実現できる力を育てていくことが大切な学びの一つになるとされています。

ご家庭でも、「どこに到達しようとしていて」「どこに今、いて」という振り返りをし、「どうしたらよいのか」を伝えていくことが重要です。次の目標設定に必要な情報を与え、次の学びへの意欲を高めることで、通知表は、児童にとって、「励みになる」存在になるはずです。ぜひ通知表を用いて、前期の学びを語り合っただけであれば幸いです。

避難訓練(8月)

生活指導部

8月31日(月)に夏休み明け後、初めての避難訓練を行いました。今回は放送で緊急地震速報の音源を流し、教室内での身の守り方を確認しました。

各教室で速やかに放送の指示に従い、すぐに机の下に潜って頭を守る態勢がとれました。しかしよく見ると、机の脚を持っていない児童が数名見られました。

「放送の指示を聞く」、「机の脚をしっかりと持つ」この2つを改めて再確認した避難訓練になりました。いざという時に行動できるよう家庭でも点検いただければ幸いです。

まなびの教室

まなびの教室専門員

得意なこと・苦手なことは、一人ひとりちがいます。書いて学ぶのが得意な人、聞いて学ぶのが得意な人、人それぞれ違いがあります。

まなびの教室は、一人ひとりがもっている力をのばすために、それぞれに合った学び方で学習する教室です。

3階のコンピュータ室と教育相談室、そして2階のまなびの教室で、勉強する内容や人数などに応じて学習しています。週に一回45分、曜日と時間を決めて学級から離れて行っています。

教室では、みんな楽しく、そして一生懸命に学習に取り組んでいる姿がたくさん見られます。

スクールカウンセラーから

今年度も週3日勤務しています。スクールカウンセラーの仕事は、子どもたちが困っているときに、どうすればよいのかを考えるお手伝いをすることです。一人で抱え込まずに、誰かに話すことで気持ちが少し軽くなったり、より良い方法を見付けることができたりと、子どもたちが良い方向に進むサポートができればと思います。また、相談するという経験が、今後何か困り事や悩み事が出てきたときに、誰かに話してみようという気持ちにつながると良いと思います。そのため、授業や休み時間の様子をみながら子どもたちと関わる機会をもつなど、困ったときには気軽に相談しやすくなるよう心がけています。また、相談室では、保護者の皆様からの相談にも応じています。お子様について、何か気になることなどありましたら、ぜひご相談ください。ご家庭での様子など、じっくりお話を伺いながら一緒に考えていきます。ご連絡・お声かけ等ください。

【学年の窓から・・・3年生】

1 組担任

国語「山小屋で三日間すごすなら」では、子ども探検隊として食料の他に何を持っていくかをグループで話し合う学習をしました。

「釣り竿や虫かごは必要だね」という声や「服装は熱中症にならないように帽子をかぶろう。長そで・長ズボンがいいよね」と熱中症対策を考えられるところがさすが3年生だと思いました。

さらに「熊が出ないように熊避けベルがあった方がいいよ」、「夜にはキャンプファイヤーや星の観察、花火がやりたいね」などの想像が広がり楽しそうでした。

これからも児童の発言を大切にしながら、「どうしてそう思うかな」「他のみんなはどう思ったかな」と質問して全員が自分の意見を発表できるように指導していきます。

2 組担任

3年生になり、半年が過ぎました。2年生のころと異なる友達との関わり方をしたり、自分の主張をはっきりと言えるようになったりと成長している姿を見られる毎日です。

9月からは講師の宇井先生を迎えて書写の授業を行いました。事前に担任と授業をしていましたが、宇井先生から専門的に毛筆を教えてもらうことにとても喜びを感じていました。毛筆のコツを教えてもらうごとに真似をし、「こうかな」、「ここはうまくいったな」など呟きながら授業を受けています。新しいことに目を輝かせ、前向きに取り組むことができる姿にいつも感動しています。これからも、前向きな気持ちを持ち続けてほしいと思います。

10月の生活目標

『人の気持ちを大切にしよう』

- ・気持ちのよいあいさつをしよう。
- ・外で元気に遊ぼう。
- ・友達どうし助け合おう。
- ・言葉づかいをきちんとしよう。

「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を温める」

言葉には、大きな力があります。つかい方によって、相手の気持ちを救うこともあれば、悲しませることもあります。様々な場面で人の気持ちを大切にできる言葉をつかえるように、意識して生活しましょう。

(生活指導部)



体罰防止宣言の紹介

職員室で、『体罰』に関する事例研修及び自己点検に取り組みました。その成果を整理し、教職員一人一人の振り返りの言葉を紡ぎ、次のようなスローガンを立てました。

『一呼吸！（間をとって）深呼吸！！』

心と心がつながる言葉を伝え続け、みんなの大切な子に寄り添う教師』を宣言します

悪いことは悪いと、毅然と指導することは当然あります。そのうえで落ち着いて、心に言葉を届けていきます。